

# 会 議 報 告 書

1 会議名	平成29年度第2回北上市子ども・子育て会議		
2 日時	平成30年2月19日（月） 午後1時30分から2時30分まで	3 場所	本庁舎2階庁議室
4 出席者	<p>【委員】今西界雄会長、佐藤仁美委員、齋藤孝子委員、笠井壽枝委員、高橋千秋委員、伊藤成一委員、後藤大平委員、馬場一輝委員、川邊民弥委員、大塚健樹委員、岸隆子委員、豊巻智子委員、齋藤昭平委員（委員出席13名、欠席1名）</p> <p>【事務局】6名</p> <p>【傍聴者】2名</p>		
<p>開会に先立ち、任期満了に伴って委員全員に新たに委嘱状を交付した（1名が代表受領）。</p> <p><b>【内 容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開 会</li> <li>2 挨拶（北上市長）</li> <li>3 会長選出</li> <li>4 説 明（子ども・子育て支援事業計画及び委員の職務内容について）</li> <li>5 報 告（会長進行）</li> <li>6 議 事（会長進行）</li> <li>7 その他</li> </ol> <p>○市長挨拶要旨</p> <p>北上市版総合戦略の最優先課題として子育て支援関連施策を掲げている。今年度は子育て応援1億円プロジェクトとして子育て世帯住宅取得支援や保育料軽減を実施してきた。来年度も引き続き子育て施策に力を入れていきたい。昨年1年間で約10億円を超えるふるさと納税、主に子育て支援施策に充当していきたい。新しい1億円プロジェクトとして子どもの医療費軽減や住宅取得支援事業の内容拡充を図っていく。老朽化した学童保育所の整備や学校のトイレ洋式化要望へも応えていかねばならない。皆様から子育て施策へ忌憚のない意見をいただき、施策に結び付けていきたい。</p> <p>○会長選出</p> <p>事務局一任との意見があり、事務局案である今西界雄委員が満場一致で会長に選出された。会長から、佐藤仁美委員が職務代理者として指定された。</p> <p>○報告（岩手県子ども・子育て支援事業計画中間年の見直しについて）</p> <p><b>【質疑】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東芝メモリの進出による子どもの増加分は今回の見直しに含まれているのか。金ヶ崎のトヨタ自動車東日本は事業所内保育所を設置しているようだが、東芝の場合はどうなのか。</li> <li>→東芝メモリの進出による増加分は見込んでいない。トヨタ自動車東日本は企業主導型保育事業を実施している。従業員の確保及び就業環境の充実の面から、東芝メモリにおいても企業主導型保育事業の実施に期待をしているところである。操業開始に合わせて、担当の商工部と連絡を密にしながら検討していかねばならない。</li> </ul> <p>○議事（保育園、認定こども園、小規模保育事業、幼稚園の利用定員について）</p> <p><b>協議の要旨</b></p> <p>30年度開所を予定する小規模保育事業の認可希望事業者及び定員変更を希望する小規模保育事業</p>			

所があったことから、現在の利用定員の状況と、子ども・子育て支援事業計画で定めた平成30年度の利用定員の計画について協議し、承認された。

## ○その他

### 【情報交換】

- ・子どもの医療費給付事業について、高校生まで対象を拡大するとのこと。子育てに支援に手厚いまちでありと感じており、少子化対策につながっていくと思う。
- ・ワークライフバランスの観点から、男性も女性もどちらも子育てに参画することの重要性をより広めていく必要がある。企業を誘致して雇用を生み出すことと同時に、働きながら子育てするための企業への情報提供も大事である。子ども・子育て支援事業計画において、企業向けの子育て世代の働き方支援に関するメニューを多くすべきではないか。
  - 市の所管はまちづくり部地域づくり課。市の中で連携を取りながらワークライフバランスを推進していく必要がある。
- ・地元の更木幼稚園は開園時間が限られており園児が集まらないのではないかと。幼保連携の取組みの考えはないのか。
  - 入所申込件数は幼稚園より保育園が圧倒的に多くなっている。就業状況の変化によるものが大きい。ニーズの変化をとらえ、現在更木・藤根・横川目幼稚園で18時までの長期預かり保育を試行中である。課題等を整理し、本格実施につなげていきたい。認定こども園は和賀地区から設置要望があり、横川目幼稚園と横川目保育園の認定こども園化について準備を進めている。
- ・いじめ問題について、子どもがいじめられていると表現できない、周りも気付かないことを遺憾に思う。スマホの普及によるいじめも多くなっており、PTAでもスマホ教育に取り組んでいる。教育現場において子どもがいじめられていることを直ぐに気付ける仕組みづくりが重要と思う。
- ・保育園で朝から晩まで長時間子どもを預かっている。子どもたちの気持ちを受け止めて親御さんに伝えることが大事であると感じている。長い時間を保育園で楽しく過ごせること、家庭でも同じよう楽しく過ごすことができるよう情報を共有し、伝えていきたい。
- ・民生児童委員であるが、定期的に学校訪問を実施しており、不登校、いじめ、病気等問題があっても家庭の中には入っていけないというジレンマを抱えて活動している。不登校が引きこもりにつながるケースもあり、義務教育の段階で何とかできればと思う。これからの未来を支えていく子ども達が元気に夢を持って育ってほしい。

### 【教育長から】

- ・3期目の委員の皆様にはそれぞれの立場から気づいたことを遠慮なく伝えていただきたい。
- ・子どもの数は減少しているが、教育・保育のニーズは増えており、ニーズ量を受け入れるための枠の見直しが必要となる。未満児を受け入れる小規模保育事業所が増加している実態もある。
- ・毎年5月1日現在の児童生徒数を調査しているが、年度によって人数は違っている。一昔前は1学年約1,000人であったが、今年の中学3年生は855人、小学校1年生は829人、現在の1歳児は666人、今年の1歳児は718人となる。子どもの数の変動により、保育園・幼稚園の必要枠も見直しを持って決めていかねばならないことから、委員の皆様にご相談し意見をいただきたい。
- ・東芝メモリの新工場建設に当たっては規模、年齢層、家族構成、市内の居住割合等情報収集に努めている状況。小中学校の適正化問題や、子育て関連施設の確保等大きな課題を抱えており、遺漏なく対応していきたい。
- ・子どもの生活実態には格差があり、学校現場は困窮している。地域においても同様であり、格差をどう埋めていくのかが行政の大きな役割である。市では生活実態調査を今年度中に実施し、来年度集計分析の予定。未発表であるが、岩手県においても来年度実施の構想を持っている。

